

クリ幼木の凍害は「株ゆるめ」処理で防ごう!!

クリは2～4年生の幼木が特に凍害を受けやすい。凍害発生を抑制する技術の一つとして、改良型の油圧ショベルで軽く幼木株を持ち上げ、軽い断根と土壤中に孔隙を作る「株ゆるめ」処理を開発した。

内 容

技術は油圧ショベルのバケットに削岩機のスチール（先端部）を取り付けた「フォーク型バケット」（写真1）を用い、幼木株を10cm程度、やさしく持ち上げることで、軽い断根と株周辺の土壤に亀裂を作り、物理的に根からの吸水を防ぐ技術で、11月頃に処理する。その結果、樹体内の水分を早期に減らし、糖含量を高めることで、耐凍性が高まる。あわせて土壤の深耕効果による樹勢改善が期待できる。

具体的な処理の方法としては、

- (1) 幼木の株元の草を刈り、枝の伸び等樹勢を見て、根の張っている位置を想定する（写真2）。
- (2) 樹の状況に合わせ株元から50～60cm離れた

ところから約60度でフォークを差し込み（写真3、4）、フォーク先端が株直下にきたところで、軽く10cm程度持ち上げる（写真5）。

- (3) 株を元に戻し、差し込み時と逆にバケットを滑らすよう静かに戻す（写真6）。

普及上の注意事項

植栽条件（平地植えや高盛・高畝）、土壤条件でも根の張りが変わるので、樹の状況に応じた対応を心がける。

また「ブレーカー専用アタッチメント（特許第5994085号）」を用いると樹高が高くても対応が可能である。

織邊 太（農産園芸部）

（問い合わせ先 電話：0790-47-2424）

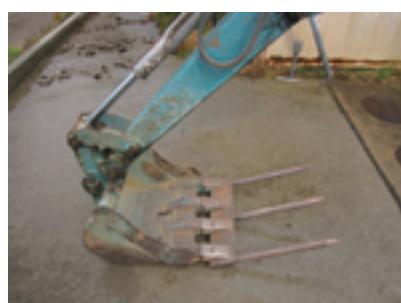


写真1 フォーク型バケット



写真2 根の張りを想定



写真3 約 60 度に差し込む



写真4 株下まで差し込む



写真5 約 10 cm持ち上げ



写真6 土壌に亀裂発生